

土木工学・建築学委員会インフラ高度化分科会（第 25 期・第 15 回）議事趣旨

日時：令和 5 年 6 月 20 日（火）10:00～11:00

会場：オンライン開催（Zoom）

出席者/

小林潔司，小池俊雄，小松利光，高橋良和，多々納裕一，那須清吾，安福規之，小野潔
（敬称略，順不同）

配布資料：

資料 1 第 14 回インフラ高度化分科会議事要旨（案）

資料 2 査読番号 33_コメント票（土木工学・建築学委員会）_A-再査読意見

資料 3 査読番号 33_コメント票（土木工学・建築学委員会）_B-再査読意見

資料 4 インフラ高度化分科会【意思の表出】見解案_20230620

1. 前回議事要旨の確認

第 14 回分科会議事録案が了承された。

2. インフラ高度化分科会の「意思の表出」について

- ・小林委員長より、「緊急な話があれば分科会を開催する可能性もあるが、今回の分科会をインフラ高度化分科会の最後の分科会としたい」、「見解に対する再査読の結果が届いたため、その対応を本日の分科会で協議したい」との話があった。
- ・高橋委員より、いただいた再査読意見の紹介、その対応案、修正版の見解案の紹介があった。そして、高橋委員から紹介いただいた資料をもとに議論し、見解案の修正を行い、修正後の見解案を事務局に提出することになった。
- ・見解の「<参考資料 1>審議経過」の中に、今回の第 15 回分科会を記載する必要があるかどうか、事務局に確認することになった。
- ・今後、見解は「査読委員(再)→土木工学・建築学委員会→第三部会→科学的助言等対応委員会」という流れで審議が進んで行く予定である。

3. 引き継ぎについて

小林委員長より、「インフラ高度化分科会は今期（第 25 期）で発展的に解消するのではないとかと思われるが、今後議論が必要な事項等あれば、議事録に残してはどうか？」との発言があった。小林委員長の発言を受け、委員の方から、「性能とサービスのギャップをどう取り除いていくか今後も議論してみたい」、「(本分科会の検討内容は) 継続して次期の分科

会で検討するというよりは、1期くらい間をおいて状況を見ながら分科会で検討するのも良いのではないか」、「意思の表出を社会に浸透させていくための道筋を議論するのも必要ではないか」、「今回議論したことを研究に結びつけていくことも大事ではないか」、「働き方改革、ダイバーシティということも含めたい」等の発言があった。

4. その他

- ・学術会議の会員は70歳が定年である。よって、小林委員長の会員としての任期は6月30日であるが、7月1日からは連携会員として本分科会の委員長を継続される。

(文責：小野)